１２１４　ICT 活用研修会　　講師・学芸大学准教授　高橋純先生

１　ICT 活用推進連絡会プレゼンテーションの確認

２　高橋先生　講義

・グラフを見てそこから読み取れることを書き出す作業（新しい社会　地理「レタスの生産量上位３県の月別出荷量）

→　こういう使い方がタブレットで一番多い使用方法。思い付きで配信できる。カラーで見られる。書かせることで脳の活性化にもなる。プリンとしてノートに貼らせる。拡大もできる。一人でよく確認できる。

→　手で書かせることが大切。タブレットに書き込むこともできるのだが、ノートに手で書くよさが捨てがたい。

→　社会、理科、算数、図工、国語・・・　教科書の一部を切り取って見せる。スクリーンだと遠いので手元にあると見やすい。印刷する手間が省ける。

→　情報量を増やすことを考えるのではなく、特に初学者は情報を絞った方が学びが深まる。（もちろん増やすこともできる）

→　単純な使い方が一番よい。コピーの代わり、印刷機の代わりなど。

→　グラフの読み取り方を指導する必要がある。タイトルからわかること。縦軸、横軸の意味。個々のデータ。一つの数値においての比較。（情報活用能力の育成で大事なところ。これは教科の学習から漏れてしまっているところ。これが行われないと、検索した大量のデータを見ることはできない。）

→　体を使った学習は、熟達すればするほど言語化することが困難になる。頭を使った学習は、やればやるほど言語化することができるようになる。

→　そこから読み取れた内容ではなく、読み取り方、その結論に至った根拠が示せるようになることがより重要。「見方・考え方」を学び、身に付けさせる。

・情報モラル教育　について

→　よい教材を使う。

→　具体的な対処法を教えなければならない。「考えよう」ではだめ。犯罪に巻き込まれるのにかかる時間は驚くほど短い。考えているうちに巻き込まれてしまう。

→　対処法は「怪しいと思ったら×を押せ！」「わからなかったら、信用できる大人を呼ぶ」がいい。

→　時数は学期に１度が限界？

・未来社会を切り拓く資質・能力の育成

→　ICT 環境、道具は進化し続ける。

→　必要な資質・能力の種類は変わらない。

→　より質の高い資質・能力が必要になる。

→　生涯にわたって学び続ける。ICT はその中の一部。普段使っているものを使えるようにすることの方が大事。ロイロなどは学校を出たら使わない？

→　頭をフル回転させ続けて学ぶ。

やっていることが、「目的」なのか「手段」なのか。操作に戸惑って頭がストップするような使い方はだめ。本質的なことに頭をフル回転させる工夫を考える。

→　そのために最新の環境や道具を使いこなす。

・渋谷区立広尾小学校　研究発表　　一人一台、持ち帰り可、LTE で自宅でも同じことができる　１０億円の予算で実施中

→　教科の目標を達成するため

問題発見・解決的な活動において、教材・資料の提示やビューアーとして

ドリル的な活動において

→　情報活用能力の育成のため

→　家庭学習、連絡や資料のやり取りをするため（これが高校生などでは一番重要）